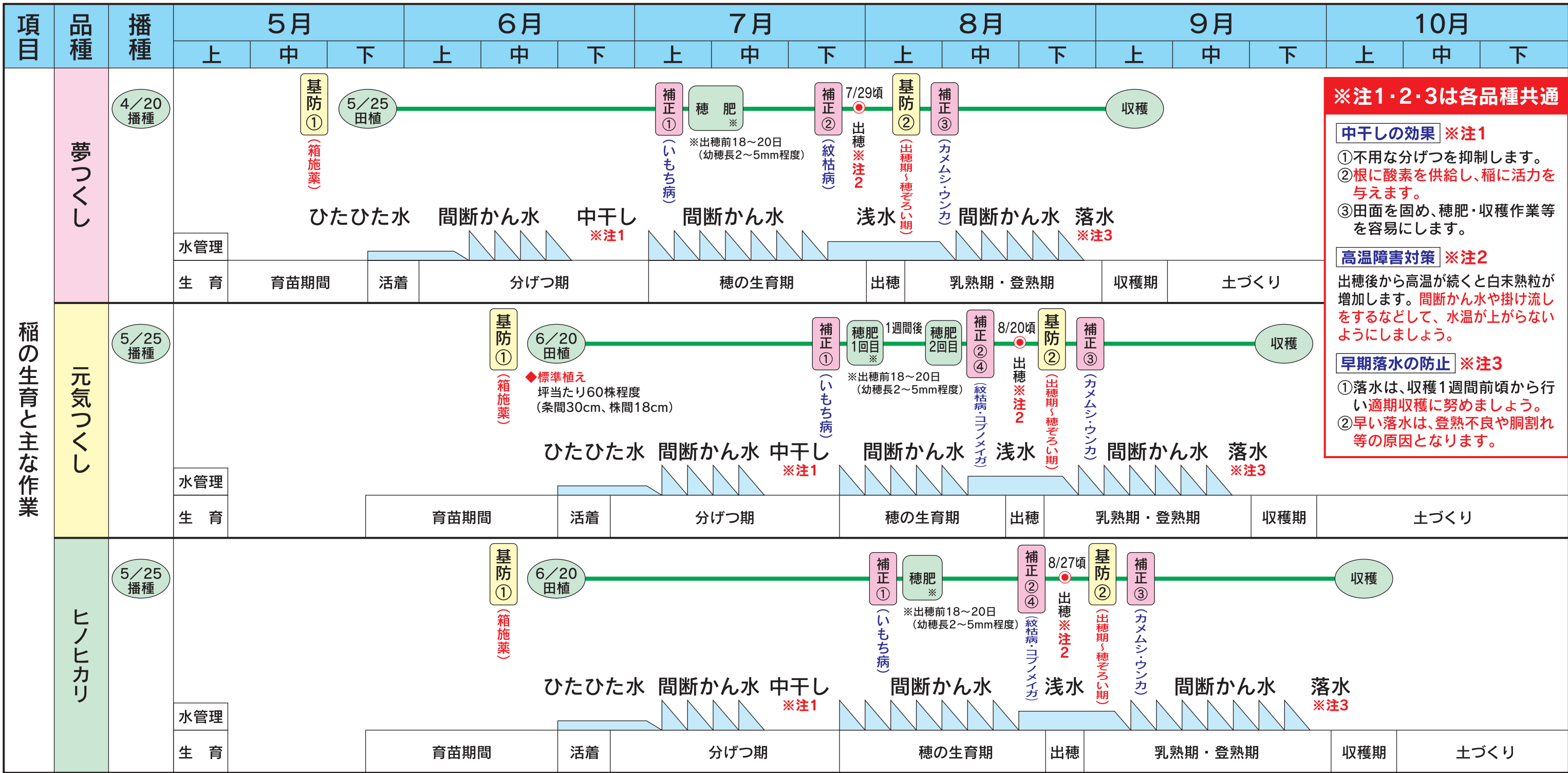


暑さに負けない稲づくりを目指しましょう!!
消費者が求めている安全・安心でおいしい米づくりをしよう!!



※注1・2・3は各品種共通

中干しの効果 ※注1
① 不十分な分けつを抑制します。
② 根に酸素を供給し、稲に活力を与えます。
③ 田面を固め、穂肥・収穫作業等を容易にします。

高温障害対策 ※注2
出穂後から高温が続くと白未熟粒が増加します。間断かん水や掛け流しをするなどして、水温が上がらないようにしましょう。

早期落水の防止 ※注3
① 落水は、収穫1週間前頃から行い適期収穫に努めましょう。
② 早い落水は、登熟不良や胴割れ等の原因となります。

土づくり

●健全な土、丈夫な根づくりのために、土壌診断に基づき適切な土壌改良材を施用しましょう。(kg/10a)

資材名	施用量	施肥時期	効果
けい酸加里	40	4月~5月	ケイ酸、微量元素などの供給
オイスターミネラル	80	年内~代かき前	
石灰窒素	20	9月~12月	稲わらの腐熟促進

※レンゲ・菜の花等を活用し良い土を作りましょう。
※環境負荷低減の取り組みとして、秋耕を実施しましょう。

施肥基準

◎基肥+穂肥の場合

●基肥＋穂肥の場合

(kg/10a)

品種名		肥料銘柄	施用量			穂肥の目安		成分量
			基肥	穂肥 1・2		施用時期	幼穂長	
夢つくし	基肥	くみあい化成ベスト444 (14-14-14)	30	－	－	出穂前 18～20日	2～5mm 程度	N6.6 P4.2 K6.6
	穂肥	NK化成2号(16-0-16)	－	15	－			
元気つくし	基肥	くみあい化成ベスト444	35	－	－			N7.9～8.1 P4.9 K7.3～8.1
	穂肥 (どちらか 選択)	NK化成2号	－	10	10			
		エムコート206ワンショット (20-0-16)	－	15	－			
ヒノヒカリ	基肥	くみあい化成ベスト444	35	－	－			N7.3～7.5 P4.9 K7.0～7.3
	穂肥 (どちらか 選択)	NK化成2号	－	15	－			
		エムコート206ワンショット	－	13	－			

- 側条施肥の場合、基肥を上記の施用量より2割程度減らします。
- 夢つくし・ヒノヒカリについては穂肥をしても葉色が出ない場合、2回目の穂肥を施用する。
- 施用する際、NK化成2号の場合は10kg/10a程度散布する。詳細は営農指導員にお尋ね下さい。
- 元気つくしの2回目穂肥は1回目施用から7日後頃に施用する。

◎基肥一回全量施肥の場合

品種名	肥料銘柄	施用量		成分量
		全層	側条	
夢つくし	Jコート2000 (20-10-10)	33	30	N6.6 P3.3 K3.3
元気つくし	Jコート2000晩稲 (20-10-10)	40	35	N8.0 P4.0 K4.0
ヒノヒカリ	Jコート2000晩稲 (20-10-10)	35	32	N7.0 P3.5 K3.5



農薬は適正に使用しましょう
農薬の飛散防止を徹底しましょう

病害虫防除

基幹防除①②は必ず実施しましょう!

番号	対象病害虫	防除体系			使用時期(防除適期)
基防①	・いもち病 ・ウンカ類 ・コブノメイガ ・イネミズゾウムシ	防人箱粒剤 50g/箱			移植3日前～移植当日
		ブーンハーデス箱粒剤 50g/箱(紋枯病対策)			
基防②	・いもち病 ・紋枯病 ・ウンカ類 ・カメムシ類	粉剤体系	液剤体系(希釈水量)	粒剤体系	出穂期～穂ぞろい期 ※ゴウケツモンスター粒剤は出穂5日前までに散布。 但し、収穫45日前まで。
		ダブルカットバリダトレポン粉剤3DL 3kg	ダブルカットバリダフロアブル 140ml(1400) エクシードフロアブル 70ml(1400)	ゴウケツモンスター粒剤 3kg	
—	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	—	—	スクミノン 1～4kg	移植直後～20日以内
補正①	いもち病	ノンプラス粉剤DL 3kg	ダブルカットフロアブル 140ml(1400)	コラトップジャンボP 10～13バック	葉いもちに対しては発生初期穂いもちに対しては粒剤は、出穂20日～10日前に散布する。
				オリブライト250G(豆つぶ剤) 250g	
補正②	紋枯病	モンセレン粉剤DL 3kg	モンセレンフロアブル 93ml(1400)	モンガリット粒剤 3kg	出穂10日前までに散布。但し、収穫45日前まで。
					出穂10日前頃に散布。但し、粒剤は収穫30日前まで。
補正③	カメムシ類 ウンカ類	エクシード粉剤DL 3kg	エクシードフロアブル 70ml(1400)	スタークル粒剤 3kg	カメムシ類、ウンカ類が多い場合は(基防②)の1週間後に散布。
				スタークル豆つぶ 250g	
補正④	コブノメイガ	—	ロムダンゾル 140ml(1400)	—	収穫21日前までに散布。

※近年カメムシ・紋枯病の被害が増えています。基幹防除は必ず実施しましょう。

イネカメムシに注意!!
イネカメムシは、出穂後の幼い稲の基部を吸汁し不稔稲を発生させる要因となります。イネカメムシへの防除効果が高いのは出穂期と出穂期の14日後の計2回防除が必要となります。対策しない場合は、不稔稲や斑点米により減収しますので、必ず対策しましょう。



雑草防除

◎初・中期除草剤

剤	除草剤名	成分	使用時期	使用方法	使用上の注意
粒剤	オイカゼZ1キロ粒剤	2成分	移植直後~ノビエ3.0葉期	1kg	・代かきはいないに行い、田面を均平にする。 ・散布時はやや深めに湛水し、田面が露出しない状態で散布する。
	エンペラー1キロ粒剤	3成分	移植時~ノビエ3.0葉期		
	ラオウ1キロ粒剤	4成分	移植時~ノビエ2.5葉期		
豆ぶ剤	ガンガン豆つぶ250	2成分	移植後3日~ノビエ2.5葉期	250g	湛水 ・浅湛え、浮き苗、根の露出があると被害が出やすい。 ・水持ちが悪い場では粒剤が効果的。 ・ジャンボ剤は水深を5cm以上に保ち、水田に均等に投げ込む。 ・ジャンボタニシ多発田では、水管理に注意する。
フロア剤	ラオウフロアブル	4成分	移植時~ノビエ2.5葉期	500ml	
ジャンボ剤	(注)プライオリティジャンボ	2成分	移植直後~ノビエ3.5葉期	10バック	
	ウルティモZジャンボ	3成分	移植後5日~ノビエ3.0葉期		
	ラオウジャンボ	4成分	移植直後~ノビエ2.5葉期		

(注)プライオリティジャンボは後作物のなす・たまねぎ・さやえんどうに葉害の恐れがありますのでご注意ください。
●除草効果を高めるために散布時期を守り、散布後1週間は湛水状態を保ち、掛け流しはしない。
●同じ除草剤を連年使用すると、特定の雑草が増えるので、他の除草剤を使用する。

◎中・後期除草剤

対象雑草	除草剤名	成分	使用時期	使用方法	使用上の注意
ノビエ 広葉 カヤツリグサ	クリンチャーバスME液剤	2成分	移植後15日~ノビエ5葉期(但し、収穫50日前まで)	薬量 1,000ml 水量 1000	・クリンチャーバスME液剤は、散布1~2日前に落水し、雑草の茎葉によく付着するように散布すること。また、高温時散布は避けて、夕方に散布を行う。 ・キシュウスズメノヒエが多い時は、クリンチャーEWを使用する。
	ワイドショット1キロ粒剤	2成分	移植後15日~ノビエ4葉期(但し、収穫45日前まで)	1kg 湛水散布	

●肥料、農薬の注文はJAへ!!

●JA米の要件を満たさない米穀は、農業倉庫へ一般米として出荷して下さい。

●栽培管理記録を必ず記載し提出しましょう。